
熱砂の超巨大移動要塞ヴィーナス

ヒロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

熱砂の超巨大移動要塞ヴィーナス

【Nコード】

N1544Z

【作者名】

ヒイロ

【あらすじ】

不治の病にかかっていた少年が人体冷凍保存で未来へ……しかし、未来は過酷な世界になっていた。

少年はどのように生きていくのか！

アンドロイドあり、モンスターあり、そして男のあこがれ戦車あり！もちろん、ハーレムだつて入れちゃいます！

果たして、少年はいちやらぶできるのか！

プロローグ（前書き）

初めてなのでお手柔らかにお願いします。

プロローグ

西暦2100年、在日米軍の度重なる不祥事に伴い日本政府は在日米軍の排除を決定する。

これを受けてアメリカが抗議行動を行うが、ある日本人の演説により反発運動が各地方で起こり、在日米軍を撤退させた。

撤退した基地は自衛隊の基地に再利用され軍事拡大を行うことに成功する。

在日米軍の排除を成し遂げる事ができた功労者の

「不知火 大蔵」が軍部の最高責任者へ就任を果たす。

この物語は「不知火 大蔵」の息子である

「不知火 和也」が織りなすファンタジー・・・なのかな・・・

雪がちらつきはじめている季節の

とある病室で医師からある病気の告知をされている家族がいた。そう主人公の「不知火 和也」と両親である。

「あなたの病気は現代の科学では治療することができません。また、これから治療を行える可能性は極めて低いと思います」

医師が沈痛な面持ちで話はじめた。

「息子は・・・息子は・・・まだ、18なのに・・・」

和也の母「佐代子」が涙を流しながらつぶやく

「佐代子・・・」

大蔵が佐代子の肩に手をおき慰めように引き寄せる。

「父さん、母さん・・・前からそうじゃないかと思っていたよ・・・」
ため息をつき、和也は話を続ける。

「大学を飛び級で卒業し大学院で博士号もとれた。

父さんの軍部で訓練と戦略、戦術も学ぶことができた。

濃密な人生だったと思う・・・それなりに良い人生だったよ・・・」

「和也・・・私は・・・私は!!」

佐代子は興奮して話す。

「佐代子！落ち着きなさい！先生・・・家族だけにして頂けますか・・・」

大蔵が佐代子に強く言いきかせる

「わかりました・・・私はナースステーション近くにいますので終わりましたら

お声をおかけ下さい」

医師はそっくり、病室を出て行った

「和也・・・よく聞きなさい。佐代子も興奮せずに最後まで聞くように」

唐突に大蔵が語り始める

「私は軍部の最高責任者としてあるプロジェクトを行っている。いわゆる人体冷凍保存といわれるものだ」

「和也の病気は現在の医療では治せない。しかし、未来で治せる可能性が

あるかもしれない。私はこれに掛けたいと思う。和也はどうしたい？」

和也は衝撃を受ける。確かに未来なら治せるかもしれない。でも・・・

「父さん・・・それは確実に治るかはわからないよね？」

「確かに可能性は低いかもしれない。でも、0%ではない。どうせ治らないなら

かけてみてはどうだろうか。佐代子はどうだろうか？」

「私は・・・私は・・・和也がずっと苦しむならば、それにかけたい・・・」

「母さん・・・俺の為に考えてくれる両親がいて本当にうれしいよ。」

分かった！父さん、俺もそれで生きることにかけてい！」

「わかった。先生には伝えておく。後で軍部のものがある施設に運ぶから」

「そこで行おう！準備は大丈夫か？」

「俺はいつでも平気だよ！」

「では、すぐに手配を行う！佐代子は先生に連絡を」

「わかりました。先生には私から話を通します」

大蔵と佐代子は急いで病室を出て行った。

病室に静寂が訪れたのもつかの間・・・ノックの音が聞こえる

「どうぞ・・・」

和也はノックを聞いて答えた

「失礼します。軍部から参りました、斉藤 正治と申します。

すぐに移動を開始したいんですが大丈夫でしょうか」

「俺は構いません。持っていくものもないですし、服もこのままで良いのならば」

「問題ありません。では、ご案内します」

病室から病院の出口へと歩き始める。

「これから移動する場所は特殊施設になりますので

関係者以外は入れません。施設のものには触れないでください」

「わかりました。ここから近いのでしょうか」

「はい、入り口で専用の車があります。そこで投薬を行います」

「わかりました。」

病院の入り口に着くと大きなワゴン車が止まっていた。

「どうぞ、お乗りください」

正治はそついい、車の扉を開けて和也を中へ促した。

「わかりました。宜しく願い致します」

和也は車に乗りこむと

「ああ、そうでした。これが例の薬です。水は横にあるので、お飲みください」

「あ、わかりました。では・・・」
和也は薬を服用し・・・そして意識がなくなった

プロローグ（後書き）

メタルサーガなどの設定が入りますが・・似ている世界観と設定と
思っています。また、更新などは遅いと思います。要塞は・・・次
の予定です。

第1話「目覚めたら美女？」（前書き）

すみません・・・要塞までいきませんでした。
まあ、ヒロインは出せたのでお許しただければ・・・

第1話「目覚めたら美女？」

コツコツコツコツコツコツ・・・

無人の廊下を靴の音が響く。

「やっと完成しました・・・」

これがあればマスターのご病気も治ります」

ロングの赤い髪をしたスタイルの良い美女がつぶやく。

「しかし・・・思ったよりも時間がかかってしまいました。

早く人体冷凍保存室に向かい蘇生を行いませんと」

コツコツコツコツコツコツ・・・

「ここまで広いと急ぐときは困り者ですね・・・

何か手を考えませんと・・・マスターにご負担をかけてしまうかもしれません」

コツコツコツコツコツコツ・・・

「あ、ここです。毎日、寝顔を覗いていましたから、

場所は絶対に忘れません。ああ・・・とうとう・・・うふふふ」

人体冷凍保存室とプレートに書かれている部屋の前で

美女が怪しい微笑を浮かべる

「では、失礼します。マスター」

プシューと音がしてドアが自動で開く。

そこには大きい部屋にも関わらず

部屋の中央に一つだけガラス製のカプセルが安置されている

「マスター、お目覚めの時間ですよ」

美女はガラス製のカプセルに近づくと中を覗き込む

「マスター、お待たせしました。もうすぐですよ」

ガラス製のカプセル近くにある透明なプレートに手をかざして何かを入力し始める。

「さあ、マスター・・・」

ガラスのカプセルから白い冷気が噴出し

静かに・・・静かにカプセルが開いていく。

「愛しのマスター、お目覚めください」

美女が怪しい微笑を浮かべガラス製のカプセルを見つめた。

カプセルが全て開ききつたと同時に男性が目を開いた。

「えっ・・・ここは・・・」

男は目を覚まし上半身を起こした

「おはようございます。マスター」

「えっ、き、君はいつたい・・・」

美女の突然の挨拶に男性は驚きながら話す。

「申し訳ございません。私の名前はCIP-99型と申します。

和也様でよろしいでしょうか」

「えっ？確かに俺は和也だけど・・・どういうこと??」

「私はアンドロイドです」

「あ、あああ、アンドロイド??えっと人間ではないということかな?」

和也がCIP-99型を頭の前から足までを見る

「はい、そうなります。ですが感情回路が組み込まれておりますので人間とほぼ変わりはありません」

「なるほど・・・ってそれなら違うところはあるのかな?」

「人間と違うところですね。子供を生む事ができない事と

身体能力や知性、記憶力などになります。戦略・戦術・戦闘など人ではできない行動を行う事が可能です」

「なるほど・・・でも、その名前じゃ呼びにくいよね・・・

CIP-99型ってさ・・・愛称とかはないのかな?」

「マスター、申し訳ございません。私にはそのようなものはありません。

「そうなんだ・・・では、俺がつけてよいかな?」

「マスターが名前を下さるんですね。お願いいたします」

「では・・・うーん、アテネなんてどうだろう?」

「アテネですか・・・わかりました。これからアテネと名乗らせて頂きます」

アテネからピーピーと機械音になる。

「な、なんだ・・・」

「名前を頂きましたでマスター登録を行います。大変申し訳ございませんが

マスターの粘膜を頂きたいと思います」

「え???どういうこと・・・」

和也が話している途中でアテネが突然顔をよせキスを行う

「なななな・・・なに!!!!??」

「粘膜登録を完了しました。正式にマスター登録完了です」

「え、あ、へ・・・」

「突然で申し訳ございません。正式に登録を行うには

粘膜登録を行う必要があります。キスが一番早く行えますので」

「そ、そうなんだ。でも、キスなんていきなり・・・その・・・」

「マスターとキスを行うのに躊躇なんてありませんよ。

マスターは和也様だけですから」

「そ、そうか・・・でも、びっくりするからさ」

「わかりました。今度からマスターに確認をとりキスを行いますね
アテネが怪しく微笑んだ

「い、いやそうじゃなくて・・・って、そうだ!聞きたいことがある
んだけど・・・」

「はい、なんででしょうか?マスター」

「あ、その前に、マスターは俺だけってどういうことかな?」

「それはマスターがマスターだからです」

「え?どういうこと?」

「それに関しましては、マスターの病気の治療を行ってからでもよろしいでしょうか」

「あ、ということは俺の病気が治るようになったということかな?」

「はい、こちらを投薬すれば完治します。まずはこちらをお飲み」

なつた後に

詳しいご説明を行いたいんですがよろしいでしょうか」

「わかった・・これで病気は治るのか。父さん、母さん、賭けにはどうやら勝てたらしいよ」

和也はそうつぶやきアテネから薬を受け取り飲んだ

「マスターその薬は即効性なので飲んですぐに効果がでると思います。」

ですが、難点は眠くなる事です」

「え・・・ああ・・・だから・・・」

和也は薬を服用し・・・そしてまた意識がなくなった

「お休みなさいませ・・・マスター・・」

アテネが怪しく微笑んだ

第1話「目覚めたら美女？」（後書き）

ふむ・・・なんかよく意識がなくなる主人公になってしまいました・

誤字とかあるかもしれませんが気にしないでいただけるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1544z/>

熱砂の超巨大移動要塞ヴィーナス

2011年12月5日22時49分発行